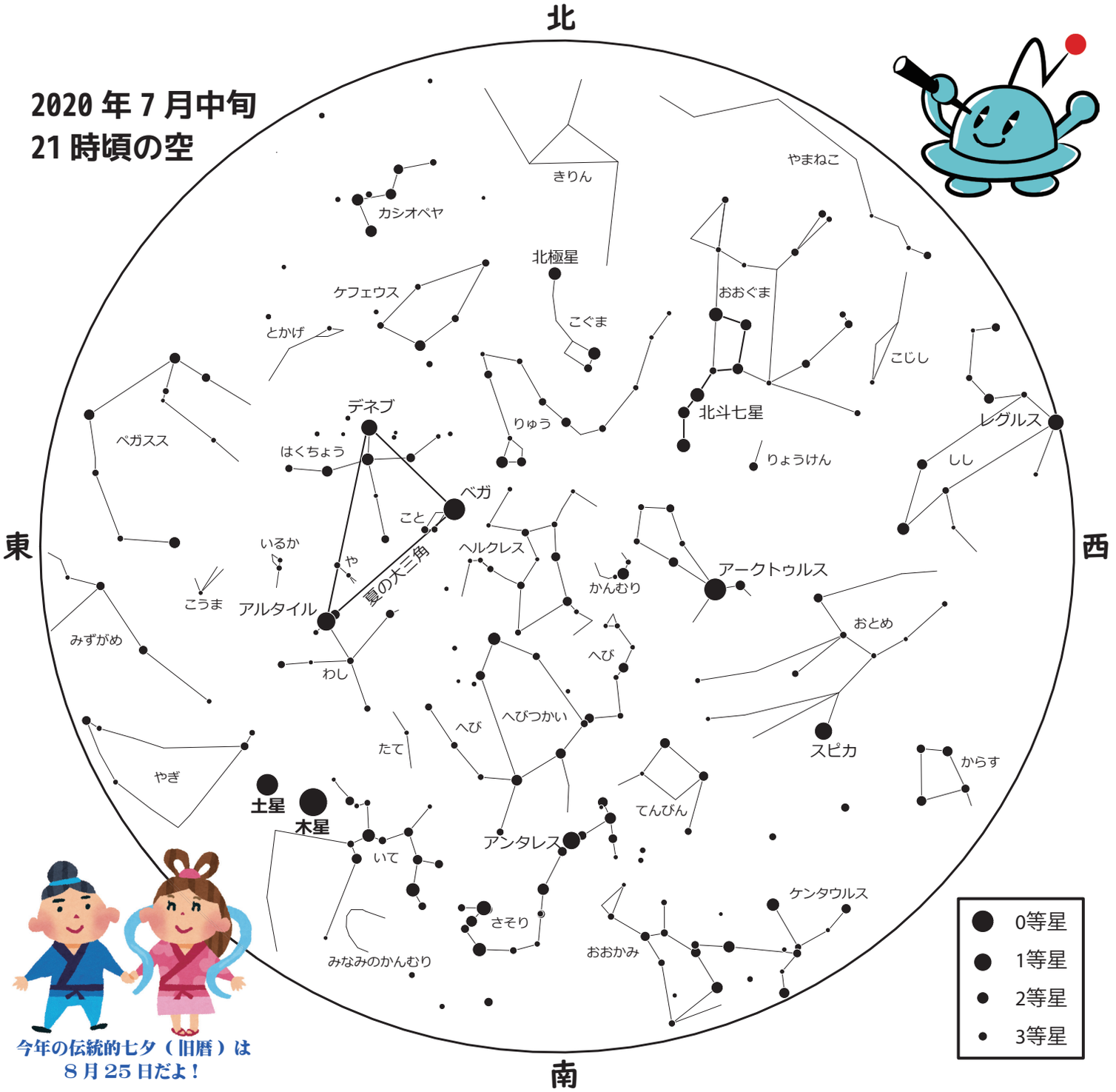
阿南市科学センター

7月の星空案内

2020年7月中旬
21時頃の空



今年の伝統的七夕（旧暦）は
8月25日だよ！

7月の上旬～中旬頃はまだ梅雨を引きずり、七夕の頃も含めてどうしても雨や曇りの日が多いですが、梅雨の中休みや梅雨明けを狙ってぜひ夏の星々を探してみましょう。南の空にはさそり座のアンタレス、東よりの空にはこと座のベガ（織姫星）、わし座のアルタイル（彦星）、はくちょう座のデネブを見つけることができます。アンタレスは宮沢賢治の作品にしばしば登場し、彼が作詞した『星めぐりの歌』の中でも“あかい目玉のさそり”と表現しています。実際に観察すると、肉眼でも赤みをおびた輝きが確認でき、宮沢賢治の世界観を楽しむことができます。なお、今年はいて座の近くに木星と土星が並び、特に木星の強い輝きが多くの人の目にとまることでしょう。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて　【毎週土曜日開催 / 19時～，20時～，21時～】

阿南市科学センター　　電話 0884-42-1600　　http://ananscience.jp/science/

■ 7 月の月の満ち欠けと惑星について

満月
5 日

下弦
13 日

新月
21 日

上弦
27 日

7 月の天体観望会で月が見える日時は？

7/4(土) ・・・21 時の回がおすすめ

7/25（土) ・・20 時の回がおすすめ

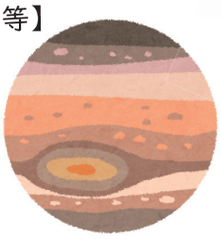
水星：7 月下旬頃、明け方東のごく低空で見える（7/23 に西方最大離隔)。【約 0 等】

金星：明け方東の空に見える（明けの明星)。7/10 に最大光度。【約−4.5 等】

火星：夜半過ぎ東の空に見える。【約−0.5→−1 等】

木星：前半夜に南東の空で見え、観察好機（7/14 に衝)。【約−2.7 等】

土星：前半夜に南東の空で見え、観察好機（7/21 に衝)。【約 0 等】

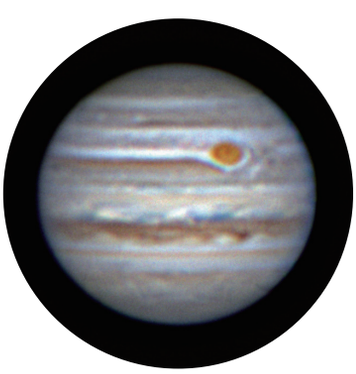


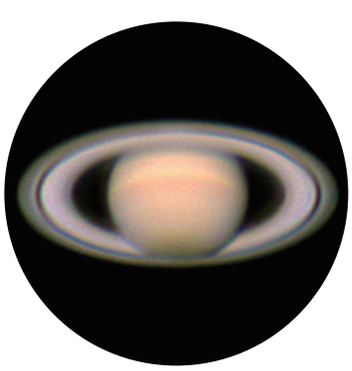
■ 注目の天文現象など

【木星と土星が観察好機！】

7 月から木星と土星が観察好機をむかえます。宇宙から俯瞰したとき、7 月 14 日に太陽・地球・木星が、7 月 21 日に太陽・地球・土星がそれぞれ一直線上にならびます。このような状態を天文学では「衝（しょう)」と言い、衝の時期の惑星はほぼ一晩中観察することができます。梅雨明けから、科学センターの天体観望会でも多くのお客様にご案内できるかと思います。

ところで、今年の木星と土星は夜空で仲良く並んで見えます。その間隔は日を追うごとにじわじわと縮まり、12 月 22 日には満月の 5 分の 1 程度まで接近します。これほどまでに接近するのは、1623 年以来（約 400 年ぶり）となり、今年以降は 2080 年まで見られることはありません。再接近時に肉眼ではどのように見えるのか（雪だるま状に見える?!)、非常に楽しみです。





木星と土星の写真
（撮影：阿南市科学センター）

【天体写真 ～干潟星雲と三裂星雲～】

写真は夏の星座いて座にある通称「干潟星雲」と「三裂星雲」と呼ばれるものです。それぞれメシエカタログでは M8, M20 となっています。両者の星雲に特徴的な赤っぽい輝きは水素ガスが自ら放つ光です。一方で三裂星雲の青い部分は、星雲近辺の恒星の光が反射（散乱）されたもので、同じ星雲でも光り方が異なることが知られています (ホームページでカラー版を公開しています)。

2020 年 5 月 24 日撮影 (徳島県牟岐町にて).
機材 : EOS kiss Digital X7i (赤外改造) + 100SDUF II + EM-1
(ISO3200, 2min×20)